

大潟海岸における平面地形および底質のコアサンプリング調査  
 Field Observation on Bottom Topography and Core Boring in Ogata Coast

○馬場康之・内山 清

○Yasuyuki BABA and Kiyoshi UCHIYAMA

This poster shows some results of a field observation carried out in Aug. 2010 in Joetsu-Ogata coast. In this field observation, three measurements have been conducted; (1) bottom profile measurement with depth sounder and (2) collection of the samples of bottom sediment, and (3) sampling of boring cores. The observation site is near the location of old observation pier, and the size of the measurement area in longshore and cross-shore directions are about 900m and 800m, respectively. The bottom profile in the observation site is measured by the depth sounder with GPS locator. It is found in the 2D bottom profile that a crescent-shaped sandbar and shoreline retreat exist. From the results of core sampling, the sorting of grain size in cross-shore direction and the deposition in alternate layers are observed.

本報告は、2010年8月に大潟海岸（新潟県上越市）で行われた現地観測の結果を示すものである。2010年8月の現地観測では、以下に示す3つの観測を実施した。

- ・GPS 測深器による平面的な海底面形状の計測
- ・海底底質（表層）の採取（2 測線，26 地点）
- ・海底のコアサンプリング（1 測線，9 地点）

観測範囲は、大潟波浪観測所の旧観測栈橋周辺で、海底面形状の計測は旧観測栈橋を中心に沿岸方向に約 900m、岸沖方向に約 800m の領域で行われている。図 1 は、GPS 測深器で計測された海底面の平面形状である。図中の旗印は、旧観測栈橋の橋脚位置を示している。旧栈橋延長線上には、トラフが確認でき、その沖には弧状砂州が形成されている。地形の特徴は、2009 年に行われた観測結果と類似している。旧栈橋付近の汀線が後退していることが確認されており、対応するように水深 2~3m の浅い領域が 2009 年の計測結果と比較すると縮小している。

図 2 は、旧栈橋沿いの測線で行われたコアサンプリングの結果である。各地点で採取されたコアはそれぞれ約 1m であり、各コアの上には採取地点の水深を示している。最も水深の大きい採取地点は弧状砂州岸側のトラフ最深部付近であり、そのコアサンプルには他の地点には見られない粘土土質の部分を確認できる。また、トラフより浅い地点では、粒径の大きな砂と細かい砂が交互に堆積している様子も確認されている。

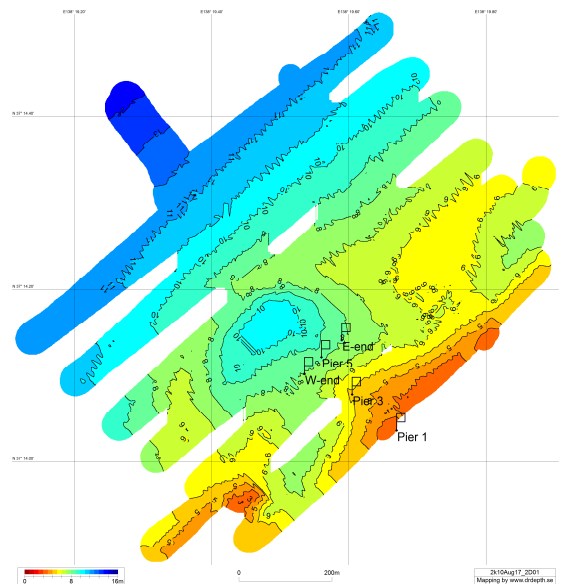


図 1 平面地形の計測結果

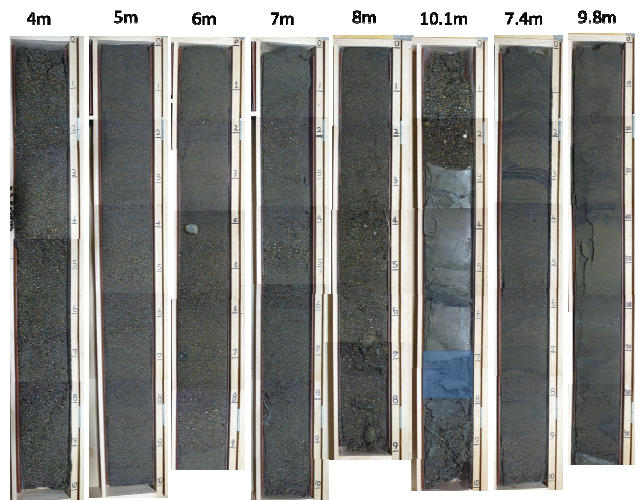


図 2 採取されたコアサンプル（8 地点分）